



スポーツ吹矢で楽しく健康に

ス ポーツ吹矢体験会が2月4日(土)に福祉会館第1研修室で開催され、小学生からお年寄りまで約20名が参加して吹矢を楽しみました。これは町総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会(安達信委員長)が主催して、クラブの設立に向けたプレイベントの第2弾として行われたもの。スポーツ吹矢は腹式呼吸の動作を基本にして健康増進を目的に考案された新しいスポーツで、的に向って5本の矢を吹いて合計得点を競います。参加者は県スポーツ吹矢協会ギフチョウ大石田支部(大山省三代表)のメンバーから指導を受けながら、楽しく体を動かしていました。参加者の一人は「想像以上に奥が深く、とても楽しかったです。機会があればまたやってみたい」と話していました。

学生ボランティアによる除雪作業

山 形大学と東北学院大学、関東学院大学の学生による除雪ボランティアが2月9日(木)に駒籠地区で行われました。除雪に当たったのは3つの大学の学生21名で、地区の方や社会福祉協議会の除雪ボランティアのメンバーとともに、駒籠地区を通る県道沿いで除雪作業にあたりました。駒籠地区では、空き家や高齢者宅の周囲などで除雪されないままになった雪の山が通行の妨げとなっていました。学生らの作業により、地区全体であっという間に雪が片付けられました。学生らはお昼には、駒籠公民館でひっぱりうどんを地区の方と談笑しながら味わい、交流を深めていました。



豆まきで心の鬼を追い払え

節 分の2月3日(金)に大石田保育園で豆まきが行われました。大石田保育園の豆まきは自分の中にいる悪い鬼を追い払うというもので、園児らは自作の鬼の面を頭につけて「ねぼすけ鬼を退治したい」、「おこりんぼう鬼をやっつけたい」などと、自分がやっつけたい鬼を発表し合ったあと保育園の外に出て、雪が舞う中「鬼は〜そと、福は〜うち」のかけ声で豆まきを行いました。園児らはそれぞれの鬼が外に出て行くよう元気いっぱいに豆を投げ合っていました。ねぼすけ鬼を退治した園児は「明日からがんばって早起きしたいです」と話していました。



ものづくりの魅力発見

大 石田小学校で「ものづくりの魅力発信講座」が開催され、6年生の児童がペン立て作りに挑戦しました。これは山形県職業能力開発協会主催で行われたもので、厚生労働省が認定するものづくりマイスターで、熟練技能者が日本一を競う技能グランプリで2度金賞(第1位)に輝いた家具・建具製作のマイスター菅野政司さん(東根市)が指導にあたりました。

子どもたちは、はじめのうちはにぎやかだった図工室が静まり返るほど集中して取り組み、木材同士をぴったりと張り合わせ、手作りのペン立てを完成させました。また、建具の装飾技法「組子」の技術も体験し、ものづくりの面白さを感じながら知恵の輪を解くように慎重に組み立てていました。



たのしい寸劇で交通ルール確認

町 内3つの保育園で今年度最後のかもしかクラブ交通安全教室が行われました。このうち2月7日(火)にはふたば横山保育園で児童約65名が参加して、1年間の総まとめとして今年度学んだ交通ルールを寸劇で再確認しました。劇は町の阿部交通安全専門指導員と尾花沢市・村山市の指導員によるもので、3人が「ただし君」、「わたる君」の兄弟とお母さんに扮して、流行のギャグも交えてユーモアたっぷりに演じました。劇では、信号の前ではきちんと止まること、道を渡るときは左右を確認すること、知らない人にはついていけないことなどを伝えました。子どもたちは笑い声を上げたり、「わたる君」が不審者に連れて行かれそうになると「助けて」と大きな声で一緒に叫んだりして、学んだルールを確認していました。



雪国ならではの遊びを満喫

ふ たば児童センターで1月27日(金)から29日(日)の3日間、東京都墨田区の児童館の子ども達を招いて「雪国体験キャンプ」が行われました。イベントには東京から約45名の子ども達が参加し、児童センターのグラウンドに設置された巨大かまくらに入ったりスノーチューブスライダー、雪合戦や雪像作りなど、雪国ならではの遊びで雪を楽しみました。

28日(土)の夕方には「ゆきんこフェスティバル」として焼き芋や甘酒などの出店も並び、町内の子ども達や地域の方も参加して雪上の遊びを楽しんだほか、幻想的な冬の花火の打ち上げも行われ、大石田の冬を満喫していました。

